

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100269		
法人名	有限会社 コンフォート		
事業所名	グループホームなけ～ま原		
所在地	沖縄県那覇市仲井真238-3		
自己評価作成日	平成28年8月27日	評価結果市町村受理日	平成28年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&jigyosyoCd=4790100269-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成28年 9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念である「支え合う快適な暮らし」の実現に向け、利用者を支え、職員同士の支えを構築するため職員同士の情報共有、法人と現場の情報共有を図っている。 スキルアップを目指し、介護福祉士が中心となりサービス適正化に取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービス事業所として、地域との交流を目的に事業所前で「なけ～ま市(いち)」を開催し、職員が作った手づくりぜんざいや漬物、業者や関連施設の野菜などを安価で販売し、多くの近隣住民が来訪している。開催にあたり、「なけ～ま市」のポスターを自治会の掲示板へ掲示させてもらったり、各家庭にチラシを投函し地域に理解してもらう工夫をしている。利用者は、販売時に袋を手渡すなどの活動に参加している。運営推進会議には、自治会長や保育園園長も参加している。近隣の園児たちが日常的に立ち寄りたりする機会も増えている。「地域と双方向でつながりたい」という管理者の思いで、ちゅら海水族館の「移動水族館」や「マグロ解体&にぎり体験ショー」などの行事を企画し、観客動員数250人というイベントも成功させ、地域に信頼される事業所づくりを実践している。居室には仏壇等も持ち込んでおり、利用者本位の理念が随所に伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成28年11月11日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念実現のためミーティングなど通し管理者と職員の連携を図っている。	理念の共有と実践として、「支えあう快適な暮らし」を柱に、利用者や職員がお互いを支えあい、楽しい職場環境作りを目指している。事業所は理念を踏まえ、地域を巻き込んだ活動を展開している。日々の実践は、利用者一人ひとりに合わせた支援を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣保育園との交流や地域の祭りへの参加などをして交流をしている。	事業所と地域とのつきあいとして、今年7月より「なけ～ま市」を玄関先で実施している。事業所を地域に認知してもらう目的で、職員が作ったぜんざいや漬物、地域から頂いた野菜や業者から卸値で購入し安価で野菜等を販売している。自治会長や近隣住民70名程が来訪している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催のイベントを通して地域の方々への理解を得ると同時に交流を図っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での指摘や意見を職員ミーティングで取り上げ改善へつなげている。	運営推進会議を活かした取り組みとして、2か月に1回定期的に開催され、行政職員及び地域包括支援センター職員、利用者、その家族、今年から近隣保育園長と地区住民も参加している。事業所から行事や外部評価、事故報告等が行なわれ、意見や情報交換がなされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護支援専門員は、グループホーム連絡会の参加、管理者は地域ケア会議への参加などで協力関係を築いている。	市町村との連携について、行政職員とは運営推進会議を始め、空き状況や研修等の情報交換を行っている。管理者は仲井間地区の地域ケア会議(地域包括支援センター職名が主催)の委員として、毎月参加し連携している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関など開放的な環境づくりをしている。また、全体で「身体拘束」を意識したケアを行っている。	身体拘束をしないケアの実践として、事業所は1階で自由に玄関から出られる状況にある。過去にベッド4点柵をしていたが、ミーティングで身体拘束の学習会を実施し、今年1月より廃止した。家族には拘束のないケアについて、リスクも含めて丁寧に説明している。		

沖縄県（グループホーム なけ～ま原）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加をして、職員全体で見過ごすことのないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加し、必要に応じて情報提供を行えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約、解約について説明を行っている。利用料や支払い方法などについても説明をして理解を得られている。また、改定等は文書を発送するなどして誤解のないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で意見を傾聴し運営に反映している。	運営に関する利用者、家族等意見の反映として、自ら要望を伝える利用者から「ドライブに行きたい」、食器拭きをしている利用者を見て、「私もやりたい」等の要望を受け反映している。その他、玄関の掃除や洗濯物干し等も行っている。家族から玄関に鈴を付けてほしいとの要望があり、行政に確認し対応中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は必要に応じてミーティングに参加し意見交換を行っている。	運営に関する職員意見の反映として、年1回個人面談やミーティングで意見を聞いている。管理者は、職員が働きやすい環境作りが大事と考え、夜勤専任を配置し、子どもがいる職員を日勤で対応している。職員から絵の好きな利用者に対応したいとの要望があり、テーブルを準備中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の取得等職員の希望に応じて取得ができる。また、楽しく働ける職場を目指して環境整備を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加を積極的に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所主催のイベントを開催して他事業所を招待するなどして交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や本人からの情報を踏まえて、部屋の環境づくりなど安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望については解決できるように努めている。また、入居後においても状況に応じて報告するなどして信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関との連携を図り必要に応じた支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の年齢や介護度も違うため一人ひとりのレベルに合った家事を手伝ってもらう等協力し合えるように工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出、外泊を都度対応し、消耗品の購入依頼をこまめに行い面会の機会を増やせる等工夫をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親せき、知人の面会を快く迎えている。電話は随時受付ている。また、郵便物などは、家族へ連絡をするなどして努めている。	馴染みの人や場との関係継続の支援として、管理者は、地域の大石公園祭りの実行委員として活動し、利用者也行事に参加し交流している。利用者の出身地まで出かけたリ、妹と一緒に模合に参加する等、人や場との支援及び把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を慎重に行い、トラブルの際は職員が間に入り、入居者同士の関係構築に努めている。また、全員でのレクリエーション活動を通して利用者同士の関わりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などにより退居した場合は、病院へ赴くなどしている。また、その後の家族からの相談があれば対応することになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりから思いや意向を汲み取るように努めている。また、ご家族や友人からも情報を得たりする。職員はそれらを記録し本人らしい生活ができるように、職員全体で共有し把握できるように努めている。	思いや意向の把握として、殆どの利用者が会話が可能で、個別介助による入浴や排泄、居室内での対応時に思いを聴くようにしている。多少困難な利用者には、表情や耳元で伝わりやすく話す等の対応で把握に努め、息子の来訪に笑顔を見せるようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報は介護支援専門員が作成し、ご家族、本人から得た情報や日頃からの会話から得た情報などを職員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りを中心に、情報提供を行い全体で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員から情報を得た上で、評価を実施。入居者本人、ご家族の意向も踏まえ、計画立案に取り組んでいる。また、状態の変化に応じて計画の見直しを行っている。	チームでつくる介護計画とモニタリングとして、6か月毎の定期的な見直しと3か月毎にモニタリングを実施し、状態により見直しも行っている。介護計画には、調理が得意な利用者のニーズや家族から転倒が心配なので布団にしてほしい、等の意向が反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者の個別記録にサービス内容を反映させ、ケアの提供や記録を行っている。プランに合ったケアがなされているか判断基準にもなる。介護計画の継続や見直しに活かしている。		

沖縄県（グループホーム なけ～ま原）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2週1回の訪問診療と週1回の訪問看護で本人やご家族の不安、負担軽減に努めている。また、ご家族や職員からの情報収集を行い、全職員で話し合い入居者1人1人に合ったプランを作成しケアの提供を行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院との連携、訪問理美容などを活用したり、同法人の事業所のレクに参加するなどして健康に楽しく過ごせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を導入し、緊急時など必要に応じて病院受診の対応をしている。ご家族の不安、負担軽減に努めている。	かかりつけ医の受診支援として、2週間ごとの訪問診療や週1回の訪問看護による対応がされている。眼科等の他科受診時に、家族対応が難しい場合は職員が同行することもある。受診結果は、直接または電話等で家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携が図れている。入居者の心身の状況を伝え、その都度適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必ず同行し医師、看護師へ直接情報提供を行っている。入院中の面会を多く行うなどして、本人やご家族が安心できるように努めている。また、相談員との情報交換を行い病院との連携を図り、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の意見とご家族の意向を尊重し、必要に応じて環境整備を行う。また、職員の意見も尊重するように努めている。	利用開始時に重度化についての方針を家族に対して説明している。事業所内で訪問看護師による研修会を実施。利用者の状況の変化に応じて主治医の判断と家族の希望があれば、訪問看護師と連携して利用者と家族を支援する意向が確認できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者は緊急時にはいつでも対応している。看護師からもその都度指導が得られている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づき、避難訓練を実施している。職員は避難経路など把握するように努めている。	防災訓練は、平成27年7月6日と平成28年5月27日に実施している。事業所は1階と2階にあり、今年より3階の大家も訓練に参加している。非常用食料等は普段買い置きしてある食料や水などを充てることにし、備蓄としては準備されていない。	今年11月に2回目の訓練を計画しているが、運営規程に「半年に1度の訓練実施」と記載されており、規程通りの訓練の実施が望まれる。また、緊急時に備えて食料や介護用品等の備蓄が期待される。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内の室温調整、明るさなどの環境整備を行い、希望する利用者の午睡支援の対応また、入居者に対しての言葉使いや対応がなれ合いにならないよう努めている。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について、夜勤は男性勤務が多いため、女性利用者や家族に同性介助ができない場合の説明を行うとともに、配慮に努めている。言語での対応が難しい利用者には表情や声のトーン等に配慮し、丁寧に向き合うことで意向を把握するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で入居者の思いを、言葉や表情で感じ、読み取り自己決定へとつなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその時の状態や状況のペースに合わせ対応できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、希望者には化粧など支援している。訪問理美容では、本人の希望に沿った髪をカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のスタッフが利用者と一緒に調理や片付けなどを行っている。 利用者の状態に合わせた形態を提供している。	食事を楽しむことのできる支援として、嚥下状況に配慮しながら、利用者の好きなミートボールを提供したり、主食をご飯やあらみじん切りのおかずで切り替えることで、表情も豊かになり食欲もわいてきた事例がある。食事を途中で摂らない場合は、取り置きし後でゆっくり食べてもらう等の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、訪問看護師、介護支援専門員と相談しながら、利用者の状態に合わせて食事量、水分量を調整して提供している。		

沖縄県（グループホーム なけ～ま原）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底。入居者1人ひとりの口腔状態に応じたケア方法を検討・実施をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりのレベルや時間帯に応じて下着を使い分けている。仕草や排せつチェック表で判断しトイレ誘導を支援し失禁を予防している。ポータブルトイレの使用は夜間のみ。日中はトイレでの排せつを支援している。	排泄の自立支援として、利用者の排泄の間隔をチェックすることで職員が把握し、言葉かけでトイレへ誘導支援している。排泄介助が必要な利用者は1人のみで、夜間にポータブルトイレ使用の利用者は2人となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食材の考慮、午前・午後に体操えお取り入れるなどして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回。状態や希望に応じて調整。体調不良者の入浴の可否は看護師にて判断している。また、肌の状態に合わせ、洗身物品を調整。1人ひとりのレベルに合わせて介助方法を変えている。	入浴を楽しむことができる支援として、入浴は週3回で、入浴時間や方法は一人ひとりに合わせて個浴を実施し、その日の着替えを自分で選ぶことのできる利用者もいる。寒い場合は入浴前に浴室を温め、利用者が心地よく過ごせるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に合わせて調整、支援している。寝具類や室内灯、室温なども希望に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服説明書をいつでも確認できるよう所定の場所に設置している。支援方法や症状の変化についても看護師を中心に職員全体で確認し合えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体レクや余暇活動として運動やドライブを取り入れ支援している。		

沖縄県(グループホーム なけ～ま原)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所裏にある公園への散歩、ドライブも機会を増やすなどしている。また、日曜日には消耗品の買い出しにも誘い外出の機会を増やしている。	日常的な外出支援として、利用者の個人の衣類や日用品等の買い物をしながら個別的な外出を行っている。日々の暮らしでの外出として、施設側の公園等の散歩や公共施設の足湯、もやしの詰め放題、関連施設の畑の作物収穫等、外出の機会を工夫し対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には一緒に買い物をするなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話対応をしている。年賀状の作成を計画している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアからできる限り外が見えるように努めている。また、季節の野菜を栽培するなどして季節感を感じるように努めている。	居心地のよい共用空間づくりについて、食堂兼居間にカラオケが設置され、多くの利用者がカラオケを前に唄っている姿が見られた。2階居室への移動は、殆どの利用者に対し、階段での移動を支援している。共用テーブルに乾いた洗濯物をとりこみ、利用者も一緒にたたんでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファを増やすなどして思い思いの場所でくつろげるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に応じて部屋には畳を敷くなどしている。仏壇やポスターなども部屋に置けるなどして希望に応じた居室環境ができるように努めている。	居心地よく過ごせる居室の配慮として、利用者の希望で職員手づくりの小仏壇や家から持ち込んだ本格的な仏壇(2基)、仏具が室内に置かれている。寝具や枕、写真、ポスター等、家族や利用者の意向に添う位置に配置し、心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所などを明確に分かるように表示するなどしている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームなけ～ま原

作成日 : 平成 28 年 11 月 29 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けに取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35 (13)	防災訓練を今年11月に2回目の訓練を計画しているが、運営規定に「半年に1度の訓練実施」と記載されており、規定通りの訓練の実施が望まれる。また、緊急時に備えて食料や介護用品等の備蓄が期待される。	防災訓練については、消防計画に基づき半年に1度の実施を行っている。 また、緊急時に対応する非常食及び介護用品については、法人として備蓄場所及び備蓄の種類等を検討する。	飲料水を含む備蓄を法人の平成29年度の予算計上を行い早急に対応する。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。